

神学校献金(神学生奨学金献金) 振替00150-7-669605 日本バプテスト連盟全国壮年会連合事務局

「WWJD—イエスならどうするだろうか」 日本バプテスト連盟 宣教研究所 所長 朴思郁



WWJDとは、「イエスならどうするだろうか(What Would Jesus Do?)」の頭字語で、米国の小説『主の歩みに従って(In His Steps)』に由来します。1896年に初版を発行して以来、これまで5000万部以上売れたその本が現在も年平均10万部が売れ続けているのは、時代と文化を超えて、常にこの世における教会の存在意義が問われていることと思われる。一人の失職した家長の死をめぐる教会の共同体的覚醒とそれに基づく信仰の実践をあらすじとする小説の著者チャールズ・シェルダン牧師は、自ら失職者を装って有数の教会を歩き回り、その経験を小説のモチーフにしたと知られています。

彼は、小説の主人公のマクスウェル牧師の口を通して、次のように言います。「もしクリスチャンになるということが、単に礼拝の特権を享受しながら自分のことしか関心を持たずに、教会の仲間との交わりに時間を費やし、周りからほめられる生活を送ることであるとしたら、またそれと同時にこの世の罪と苦しきから目をそらしてしまうこ

とが私たちのキリスト教理解であれば、それこそ失われた人間のために苦しみ涙を流しながら歩まれた主イエスの足跡をたどっていくことは程遠いであろう。」

「日本バプテスト連盟これからの伝道者養成の基本理念」では、一人の人が伝道者として生まれていく基本的な道筋は、教会の中から立てられ、教会の祈りによって神学校に送り出され、神学校で「専ら神学教育」と教会研修に集中することを、私たちが目指していきたい「伝道者の学びの道のり」として掲げています。しかし、それと同時に私たちが見逃してはならないのは、「神学を学ぶ」ことは、それ自体が目的ではないということです。それは他ならぬ、如何にしてこの時代にイエスの精神と愛を実践するかを身につけるためであるということです。コロナ危機が長引く中、それぞれの神学校で勉学に励んでいる神学生の皆さんが、この時代を俯瞰しつつ、「イエスならどうするだろうか」と常に批判的自省察を怠らず、特にポストコロナ時代を見据え、神学の研鑽に励むように祈っていききたいと思えます。

「第56回全国壮年大会（福岡大会）に向けて」 大会実行委員会 藤 寿（那珂川教会）

2021年8月に第56回全国壮年大会を福岡で開催すべく準備を進めています。

今回の大会のテーマとして、「今こそ、バプテストの伝道スピリット」と掲げています。教勢が落ちてきている中に、新型コロナの影響を様々に受けておりますが、その中であって福音を届ける為に一歩踏み出す者でありたいと願います。



奥村敏夫牧師

今回の主題講演者として、釧路キリスト教会の奥村敏夫牧師にお願いをしています。北海道の道東地区でこの5年間に、他教派の5つの教会が解散・閉鎖しています。その様な中であって釧路教会は、「出会い」を大切にされて、無教会地区となった近隣の市や町でも地区礼拝を始めました。

そして、技能実習生として働いておられる方々のために英語礼拝も行っています。その実習生たちの為の支援に、周辺一般の方々が教会に持って来られることが起きています。状況がいかにあって、福音に生きる、福音を届ける思いを感じます。



濱野道雄教授

そして、西南学院神学部 濱野道雄教授に公開模擬授業「教会のマネジメント（仮題）」をして頂きます。今、教会は大きな岐路に立たされています。教会維持のために疲れや渴きを覚えている方もあるかもしれません。マネジメントは、組織の運営と目的実現のためのものですが、教会の働きである宣教、奉仕、共同体形成を改めて問い直し、神様から教会に与えられたミッション（使命）をいかに実現していくのかをご一緒に考えたいと思えます。

今回の大会は、8月19日（木）～21日（土）の日程で考えておりますが、新型コロナの感染拡大状況を考慮して、1泊2日、またはZOOM会議の併用など、変更が有り得ることをご了解ください。様々な試練や困難がある中で、主なる神を見上げつつ準備を進めております。



退職してからのシニアの2年間に学んだことを教会の現場で実践するにあたって、教会の現状を確認しておきたいとします。使徒たちによる伝道の初めより教会は絶えず宣教活動を続けて来ました。現在の課題が過去に遭遇した課題と比べても質的に異なるように感じられるのも確かです。

それは、社会の構造変化を根源とする少子高齢化です。これは先進資本主義国において共通の課題ですが、日本においては特にその趨勢が著しく、それが人口1%未満を脱することができなかったキリスト教諸派の教会を直撃しています。高度成長時代からバブル経済時代後ぐらいまでに教会の中堅をなした世代がそのまま高齢者となり引退の時期となっても、その後を継ぐ世代が層としては形成されないまま教会員数・礼

拝出席者数の顕著な減少が現出しています。

私の所属する教会は無牧師の状態が2年近く続き、先に連盟からの支援を受けていたため、今後はそれもできず、牧師招聘の見通しは立っていません。現在、毎週の説教は月1回のご高齢をおして土生幸子協力牧師が担ってくださり、また、別の1回は他教会から牧師・信徒の方をお呼びしており、あとの2~3回は伝道主事である興津が担当しているという状況です。多様な方のメッセージまた信徒説教としての奉仕はそれなりに意義深いものである事は確かです。牧会的取り組みに関しては、執事の方々がすすんで電話等で近況をきき折に触れた相互牧会的にコミュニケーションをとって下さっておられます。新しい視点で考え、提案し、実践して行くことに神学部で学ばせていただいたことを生かすことができればと思っている次第です。

### 全国の教会・伝道所の壮年の皆様へ(全国壮年会連合事務局長 豊永義典)

#### 2021年1月現在 神学生奨学金献金・会費の納入状況と、納入促進・期限内納入のお願い

地方連合名	神学生奨学金献金					連合会費				
	2021/1実績		前年同月		対前年額	2021/1実績		前年同月		対前年額
	金額	教会	金額	教会		金額	教会数	金額	教会	
北海道	394,725	8	405,356	10	-10,631	64,000	4	78,000	6	-14,000
東北	438,422	12	418,772	13	19,650	104,000	10	84,000	12	20,000
北関東	1,007,197	15	1,397,012	15	-389,815	198,000	11	166,500	12	31,500
東京	1,395,430	21	2,349,104	30	-953,674	108,000	13	306,000	15	-198,000
神奈川	1,057,700	12	1,617,973	12	-560,273	155,000	9	141,000	7	14,000
西関東	277,788	6	310,804	6	-33,016	59,500	5	60,000	5	-500
中部	415,380	8	419,597	7	-4,217	110,000	8	126,000	13	-16,000
関西	525,500	15	780,783	18	-255,283	84,500	6	97,500	7	-13,000
中四国	705,275	16	760,540	16	-55,265	106,000	10	91,500	10	14,500
北九州	543,020	13	589,746	13	-46,726	86,500	7	46,500	6	40,000
福岡	1,239,360	24	1,122,385	21	116,975	231,500	13	180,000	15	51,500
西九州	258,800	7	317,624	9	-58,824	28,000	3	39,000	3	-11,000
南九州	511,615	14	499,370	14	12,245	120,000	11	103,500	13	16,500
<b>地方連合合計</b>	<b>8,770,212</b>	<b>171</b>	<b>10,989,066</b>	<b>184</b>	<b>-2,218,854</b>	<b>1,455,000</b>	<b>110</b>	<b>1,519,500</b>	<b>124</b>	<b>-64,500</b>
個人団体等	5,500	0	535,314	0	-529,814	-	-	-	-	-
<b>総計</b>	<b>8,775,712</b>	<b>171</b>	<b>11,524,380</b>	<b>184</b>	<b>-2,748,668</b>	<b>1,455,000</b>	<b>110</b>	<b>1,519,500</b>	<b>124</b>	<b>-64,500</b>

◎1月末現在、教会・伝道所の地方連合合計は前年比で神学校献金は▲2,218,854円(79.8%)です。

連合会費は、前年比-64,500円。教会数では、-14。会費納入人数は-285名です。

### 「地方連合壮年会長等の代表者会議を開催しました」

事務局長 豊永 義典

昨年から続いているコロナウィルス感染拡大は、現在も第3波のなかで大都市圏の非常事態宣言が3月7日まで延長されて、油断できない状況です。この影響で全国的な活動はこれまで全く出来ませんでした。役員会をはじめ全国の皆さんもWebの会議にだいぶ慣れてきたことから、新年度の活動につなげるため、全国の地方連合壮年会長と神学校献金推進委員を対象に1月30日に会議を開催しました。午前と午後2時間ずつのプログラムで、午前はまず朴宣研所長による「教会の「公共性」」と題した講演を聴きました。コロナ危機を生きる・ポストコロナ時代を生きるためのキーワードとして「公共性」を挙げ、その今日的課題を認識し、実践していくことが教会に求められていることを語られました。その後、参加者の自己紹介と連合の活動へのコロナの影響を報告する時間を持ちました。

午後は壮年会の大きなテーマである「これからの伝道者養成について」、「奨学金制度の課題と今後の取り組みについて」、「2021-2022年度の神学校献金目標額」の3件について意見を出し合いました。最初のテーマについては12月の神学教育に関する委員会や、前日の1/29連盟の改革に向けた「伝道者養成に関する検討会議」で語られた内容を聞いたうえで意見を出し合い、2つ目のテーマは連盟から運営の委託をうけて20年間経過した「奨学金制度の運営」のなかで感じている課題について役員会が考えていることへの意見を聞きました。3つ目は神学校献金目標額で、ここ数年西南の神学生が大きく減少し、献金額も2000万円を割る状況で、目標をどこに置か、色んな考え方・目標額が提案されました。

2月6日開催する役員会で、上記の内容をフォローし次年度の計画に反映させていきます。



日本バプテスト連盟全国壮年会連合

〒336-0017 さいたま市南区南浦和1-2-4

事務局執務:月、水、金 10:00~16:00 ☎fax:048-886-7533 <http://www.sonen.net> [sonen@bapren.jp](mailto:sonen@bapren.jp)